



当院は『日本麻酔科学会認定病院』です。

○麻酔科 勤務医師紹介

役職	医師名	卒業大学名	卒年	取得資格及び得意分野
部長	平田 誉	京都府立医科大学	S58	麻酔科標榜医 日本麻酔科学会専門医・指導医 日本救急医学会認定医 京都府立医科大学臨床教授
医員	藤本 俊一	札幌医科大学	H19	麻酔科標榜医 日本麻酔科学会認定医
医師	高橋 麻由	関西医科大学	H10	

※他、非常勤医師あり

◎麻酔科の特色

当院は六甲山の裏側に位置した医療機関の中で、パルスオキシメーターやカプノグラムは勿論のこと、吸入酸素及び麻酔薬濃度モニター・麻酔薬深度モニターを完備した唯一の全身麻酔が可能な病院となっております。

年間1100件の全身麻酔症例に対応しており、症例は主に、外科、脳神経外科となっております。また、硬膜外麻酔をはじめとし各種神経ブロックを積極的に行うなど、術後疼痛管理に特に力を入れています。

特徴として、全身麻酔は、プロポフォールを用いた完全静脈麻酔が半数以上を占めています。手術室内への無線LAN導入により、コンピューターによる麻酔薬血中濃度解析等が可能で、高水準の麻酔レベルを保てるよう環境を整えております。原則として底流量麻酔を行うようにし、微力ながら地球環境を汚染せぬよう心がけています。

◎当院の麻酔科とは

当院は、六甲山の裏側に当るエリアで、広く北部エリアまでを網羅する10万人の診療圏を持っています。24時間体制で全身麻酔が可能な唯一の医療機関として、地域の信頼を集めています。拘りは、この体制を守りぬくために、麻酔科医師を招聘し、将来においてバーンアウトしない麻酔科を作る事を掲げています。

現在は常勤医師3名と非常勤医師の体制をとっています。京都府立大学病院の関連施設として、医局派遣が行われておりますが、外部からの医師の招聘も積極的に行っており、大学医局に所属をしていない医師も勤務しております。学閥もなく、診療科との垣根も低い環境は、他科と連携を図る麻酔科においては、勤務がしやすい環境です。将来においては、常勤医師5、6名体制を目指しております。

現状、オンコール当番をローテーションにて対応しておりますが、増員が行えると、オンコール担当日の翌日を休日にする等、医師を休ませる時間を確保し、疲弊しない麻酔科を構築したいと考えています。精神的ストレスを感じない麻酔科を作りたいと考えているのです。

◎症例数

【オペ件数症例内訳】

2017年度手術実績

外科…約55% 整形外科…約38% 皮膚科…約8% 耳鼻咽喉科…約31% 脳神経外科…約13%

歯科口腔外科…約8%件

オペ室利用の手術件数 1749例(うち全身麻酔 1029例)





### ◎勤務医からのコメント

現状は、手術麻酔を中心として勤務を行っておりますが、その他に、麻酔科が担える業務としては、ICUの管理や救急対応もあります。現状、救急担当はなく、手術麻酔に専念できる体制をとっておりますが、医師の中で、救急対応を希望される方やICU管理を希望される方には、他の診療科と連携を行い、業務範囲を決定しながら、御希望の勤務形態が組めるように、調整を行っています。勤務している麻酔科医師の中には、救急対応、ICU管理、手術麻酔に携わっている医師もおります。勤務の調整をすることにより、それぞれの医師の目指すことややりたい事を実現していただけるように考えていま

院長代行 麻酔科指導医 平田 誉先生

### ◎勤務状況はいかがですか？

現状で年間の緊急オンコール数は、約40例ほどですが、近隣の医療機関の救急制限や手術症例の集約化において、年々、症例が増加傾向にあります。胸部外科を標榜していない事より、緊急症例は一部限られてしまう事もありますが、なくてはならない医療機関として、夜間の緊急にも万全な体制を構築するとともに、医師の勤務形態を考えるのも、自らの役目だと考えて、対応しています。日中の症例は、予約手術が中心となり、必要に応じて緊急オペにも対応しております。全身麻酔症例のみではなく、腰麻や局麻にも対応しますが、手術症例を麻酔科医師と調整しながら担当を行っております。例えば、専門医を取得希望の若手医師には、積極的に多様な症例があたるよう、調整も行っています。当院は完全な静脈麻酔が出来る施設でもあります。血液濃度が測れるシミュレーターを医師がそれぞれ携帯し、どの医師が麻酔を担当した場合においても、安全且つレベルの差が出来ない、高水準の麻酔に対応出来る端末を導入しています。医療設備も良いものであれば、柔軟に取り入れていく姿勢を持ち合わせています。きちんと基礎を築きたい医師や、勤務環境に配慮した職場で、医療に専念したい医師には、働きやすい環境です。

### ◎当直やオンコール対応は？

現在は麻酔科としては当直は行っておらず、オンコール待機を行っています。オンコール待機については、常勤医師3名でローテーションを行っております。

### ◎麻酔科の今後について

現状は、手術麻酔を中心として勤務を行っておりますが、その他に、麻酔科が担える業務としては、ICUの管理や救急対応もあります。現状、救急担当はなく、手術麻酔に専念できる体制をとっておりますが、医師の中で、救急対応を希望される方やICU管理を希望される方には、他の診療科と連携を行い、業務範囲を決定しながら、御希望の勤務形態が組めるように、調整を行っています。また子育て中の女性医師や事情により時短勤務が必要な医師に対しても、柔軟に勤務形態を相談しております。例えば週4日勤務の常勤嘱託扱い等も、今後も積極的に取り入れて行きたいと考えています。

### ◎求める医師像とは？

これまで、多くの常勤医師(医局員)や非常勤医師と仕事に携わってきましたが、一緒に勤務する理想の医師像としては、協調性のある方が望ましいと考えています。私自身も決して協調性が豊かだとは思わず、どちらかといえば、対人関係の構築が不得手な方かもしれません。だからこそそのような方を求めているのかもしれませんが、若手医師の指導や、仕事上での相談には、多忙な状況であっても応じる様、考えています。

麻酔科の仕事は、他科の様に言葉で説明することが出来ない診療科です。よって麻酔科の中の論理で対応するケースがほとんどになるかと思えます。人柄というよりは、論理でやり取りできる人物が望ましいのかもしれませんが、その点を考えた場合、ご自身の麻酔の掛け方をすでに構築されたベテラン医師より、新しいものを柔軟に取り入れる姿勢のある方や、これから専門医を取得されたい若手の先生方にご勤務頂き、一緒にこれからのバーンアウトしない麻酔科の構築を手伝って頂きたいと考えています。